

別冊ほんばこ 令和 5 年 4 月 ー2 家の人と話し合ってみよう

こんな本もある ドストエフスキー『永遠の夫』 千種 堅・訳 (新潮文庫)

### Фёдор Миха́йлович Достое́вский “Вечный муж”

1 作者ドストエフスキー (1821~1881) : 19 世紀ロシア文学を代表する世界的巨匠。父はモスクワの慈善病院の医師。1846 年の処女作『貧しき人びと』が絶賛を受けるが、'48 年、空想的社会主義に関係して逮捕され、シベリアに流刑。この時持病の癲癇が悪化した。出獄すると『死の家の記録』等で復帰。'61 年の農奴解放前後の過渡的矛盾の只中であって、鋭い直観で時代状況の本質を捉え、『地下室の手記』を皮切りに『罪と罰』『白痴』『悪霊』『未成年』『カラマーゾフの兄弟』等、「現代の預言書」とまで呼ばれた文学を創造した。(新潮文庫の作者紹介から。)

2 ドストエフスキー略年譜 (NHKブックス 亀山郁夫『ドストエフスキー父殺しの文学』の年表を参考にした。)

1821 (0 歳) 帝政ロシア時代の地主の家に次男として生まれる。

1839 (18 歳) 父ミハイルが農奴によって殺される。

1845 (24 歳) 『貧しき人々』完成、

1849 (28 歳) ペトラシェフスキーの会のメンバーとともに逮捕。死刑宣告のち恩赦でシベリア流刑。

1854 (33 歳) 刑期満了。シベリア守備大隊に配属。

1859 (38 歳) ペテルブルグに帰還。

1866 (45 歳) 『罪と罰』連載開始。

1868 (47 歳) 『白痴』

**1869 (48 歳) 『永遠の夫』**

1871 (50 歳) 『悪霊』

1880 (59 歳) 『カラマーゾフの兄弟』

1881 (60 歳) 1月死去。

3 『永遠の夫』: (ネタバレあり) 1869 年秋執筆、1870 年発表、1871 年単行本。『白痴』と『悪霊』の間の作品。

中編小説。題は『万年亭主』とでも訳した方がいいのでは、と訳者の千種堅は言う。ロシアの小説にしばしば出てくる、いわゆる「寝取られ亭主」の話。大人向きの小説で、若者には理解しにくいかもしれない。だが、非常に面白い小説であることに変わりはない。舞台は7月のペテルブルグ。ヴェリチャーニノフの前に謎の男が現われる。それは昔ヴェリチャーノフが不倫していた女性の夫・トルソーツキーだった。トルソーツキーの意図は何か？ 連れているリーザは誰の娘か？ ヴェリチャーニノフの妻・ナターリアは不倫を繰り返していた。トルソーツキーは寝取られるだけの『万年亭主』なのか。トルソーツキーは気に入った女の子たちにもからかわれ、再婚した相手にも不倫される。だが…

(主な登場人物)

ヴェリチャーニノフ : 38 歳か。ペテルブルグ在住の紳士。独身。かつてナターリアという女性と不倫の関係にあった。

マヴラ : ヴェリチャーニノフの家の世話をする女性。

パーヴェル・パーヴロヴィッチ・トルソーツキー : ナターリアの夫。3ヶ月前に妻が亡くなり、娘リーザを連れてペテルブルグに出てきた。ヴェリチャーニノフに接近し、謎の行動を繰り返す。

リーザ : トルソーツキーの娘。8 歳。

スチェパン・ミハイロヴィチ・バガウトフ : ナターリアの不倫相手。上流階級の青年。

クラヴヂャ・ペトローヴナ・ボゴレーリツェヴァ : ヴェリチャーニノフの友人。

フェドセイ・ペトローヴィチ・ザフレーニン : 五等官。娘が大勢いる。長女カチエリーナ (カーチャ)、六女ナジェーダ (ナージャ)。

リーポチカ : トルソーツキーの再婚相手。

(ロシア文学) プーシキン、ツルゲーネフ、ゴーゴリ、ドストエフスキー、トルストイ、チェーホフ、ゴーリキー、ソルジェニーツィンら多数の作家がいる。日本でも二葉亭四迷、芥川龍之介、小林秀雄、椎名麟三、埴谷雄高、加賀乙彦、大江健三郎、平野啓一郎、金原ひとみ、などなど多くの人がロシア文学から学んでいる。

(安井)